

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜本巣特別支援学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和4年2月25日(金)
- 3 開催場所 書面開催
- 4 参加者
会長 神山 弘彦 岐阜市西秋沢自治会長
副会長 山田 孝治 北方町商工会専務理事
委員 森 久子 本巣市青少年育成推進委員 本巣市主任児童委員
松本 和久 岐阜聖徳学園大学教育学部特別支援教育専修教授
高倉 勇 本巣市民生委員児童委員協議会 児童委員
牛丸 真児 瑞穂市社会福祉協議会
福祉総合相談センター相談支援専門員
橋本 民子 本巣市障害者生活支援センター「えがお」
板倉 寿明 愛知淑徳大学講師
河合 一恵 岐阜本巣特別支援学校PTA会長
真鍋 富子 岐阜本巣特別支援学校PTA副会長

学校側 吉田 晃樹 校長 松野 聡美 事務部長
樽井 良和 小中学部教頭 福井三和子 高等部教頭
松本 深香 小学部主事 山内 康弘 中学部主事
栞原 利樹 高等部主事 肥田 幸宗 教務主任

5 会議の概要(協議事項)

(1) 学校と地域、地域社会との連携について

- 意見1：災害が発生した時に、地域の学校として何ができるのか、施設の利用等、地域と日頃から連携をとることが大事である。
- 意見2：コロナ禍で校内の活動も十分にできず、校外との交流もできない昨今だが、教員が希望をもって活動しているので、今後がんばってほしい。地域の人間として、学校のことを知ることがなかなかできないので、情報発信を今後も続けてほしい。
- 意見3：学校と地域との連携となると学校周辺の地域との連携と思われがちだが、本校の児童生徒のそれぞれのは居住地も地域社会である。学校が児童生徒全員の居住地との連携までは難しいだろうが、児童生徒や保護者が、子供会や地域行事などについて教員と情報共有するなどして「地域社会との連携で大切なこと」について考える機会があるとよい。
- 意見4：交通安全に力を入れるとよいのではないかと。自転車の乗り方、歩道を歩くときは白い線の内側など基本を身につけていけるとよい。親がいなくても子どもが1人で安心して行動できることを願う。
- 意見5：各学部で実践したい活動(例：読み聞かせ、昔の遊び、パラスポーツ、新作業種開発等々)で相談したいときに、この学校運営協議会を活用するとよい。委員は、学校に何か役に立ちたいと思っている、即戦力の資源とあって活用してほしい。

意見6：公民館等で、作業製品の一部を展示できると、地域に児童生徒の様子が少しでもわかるのではないかと。今はコロナ禍で地域との交流ができなくて残念だが、マスクを外せるようになったら、ぜひ交流を再開したい。その日を楽しみにしている。交流が再開される時には、学校運営協議会委員として地域と学校をつなぎたい。

意見7：本校の地域支援センター部が瑞穂市障害者自立支援協議会に協力し、「瑞穂市の障がいを持つ子が健やかに育つための提言書」を作成することができた。この提言書は、障害福祉の枠組みを超え、地域の子どもに関わる様々な人たちへ働きかけるものとなった。地域との優れた連携の結果だと思う。

(2) 学校運営や教育活動について

意見1：児童生徒数に対して、教室が狭く、今後、児童生徒が増える可能性もあるということで、スピード感をもって対応してほしい。

意見2：高等部3年生の卒業後の進路については、こちらも今までどおり連携を図っていききたい。特にB型事業所を進路としている生徒については、事前準備（移行によるアセスメント）が必要になるため、学校と市との連携は必須となる。

意見3：コロナ禍で、学校での児童生徒の様子がわかりづらく、見えにくくなっている。学校の雰囲気に関しては、もっとホームページでアピールし、内容についても、児童生徒の輝く姿などを中心に掲載するとよい。

意見4：学校通信の「ゆめだより」を年間5回発行だが、もう少し増やすことはできないか。身近な話題でよいので学校の様子を紹介してほしい。

意見5：進路に関する事業所一覧は、内容がとても詳細に記載されており、よく調べて作成してある。コロナ禍で事業所説明会が紙面開催となり、紙面で伝えることに限界を感じることもある。生徒や保護者が相談先で困っていることがあれば、学校運営協議会委員として協力できることがあると思うので、是非、声をかけてほしい。

(3) 「現在と今後の取組及び令和4年度学校運営に向けて（思い）」について

⇒ 令和4年度学校運営に向けて、SDGs、ESD（持続可能な開発のための教育）を意識した学校運営、特に今後も継続した「感染症に強く、思いやりにあふれた学校づくり」をより意識して実践していきたい

意見1：教員の人手不足は解消されていないようである。そうした中で、SDGs等の取組で新しい課題が出たときに、教員の負担が大きくなっていくのではないかと。コロナ禍の2年で、必要なもの、必要ないものも出てきたと思われる。教員のための学校運営にならないよう、児童生徒の夢の実現のため、変わらず努めてほしい。

意見2：「SDGs」「ESD」は、今まさに考えなければならない視点である。教員の力でもって校長の学校運営に対する思いをぜひ具現してほしい。

意見3：今後の取組として、事業所説明会の企業ブースの設置は、雇用側への啓発の観点からもとてもよいと思われる。特定求職者雇用開発助成金や障害者就業・生活支援センターなどによる雇用側への支援についても、まだ十分に理解していない企業が多いので、この取組がきっかけのひとつになるとよい。

意見4：自分を大切にすることはもちろんのこと、周りの人を大切にすることの姿勢は、卒業後の暮らしや共同生活援助などの利用において、とても必要な能力である。今の生徒達の将来には、地域共生社会が拡大し、地域の人たちとの関わりの重要性が今よりもっと高まるはずである。本人が孤立して困らないようにするためにも、周りの人を大切にできるとよい。

意見5：来年度もコロナ禍により計画通りの活動ができないかもしれない。ICTの活用により、児童

生徒の学習だけでなく、学校の取組等を紹介、周知していくとよい。

意見6：作業製品のネット販売などがあるとよい。あわせて、オンライン授業参観なども実施してほしい。

6 まとめ

第3回学校運営協議会は、新型コロナウイルス感染予防対策のため書面開催とした。

各学部や分掌の自校評価についてこの評価が形骸化していないかという意見があった。そうした意見を真摯に受け止め、応えていく必要がある。

来年度に向けて現在の取組については、第2回で意見された課題についてその後改善策を講じ、ホームページの更新や学校通信等の充実に向けて取り組んだ。今後も継続して情報発信に努めていく。

魅力ある教育の実現、令和4年度の学校運営に向けての提言についても、学校運営協議会として協力できること、具体的な活動の提案等、学校運営に積極的に関わっていきたい、もっと協力したいという意見に、この学校運営協議会の意義をととても感じる事となった。職員にも周知し、来年度の学校運営に有効に活かしていくことが重要である。